

日本
SOD
研究会報

特集

丹羽療法
治療レポート

薬 害

効く薬には必ず副作用がある

発行元 日本SOD研究会 藤沢
住 所 〒154-0012
東京都世田谷区
駒沢 5-13-1-205
TEL. 03-5787-3498
<http://www.sod-jpn.org/sod>

抗がん剤、コレスステロールを下げる薬、気管支拡張剤、ステロイドなどなど。

この冬、インフルエンザ治療薬タミフルによる副作用が話題になった。未成年者の異常行動から死亡に至った経緯は痛ましい限りです。その報道の中で、日本は世界でいちばんタミフルを消費している国だという事実に驚いた方も多いのではないだろうか。普通の大人なら、タミフルを飲まなくても数日で快癒するといわれているインフルエンザ。なのに、仕事に忙しいからというだけで即効性のあるタミフルを服用してしまう日本人。なんでもかんでも薬を欲しがる患者と、処方したがる医者。日本はいまや世界一の薬消費国になっています。

薬が化学薬品である以上、常用すれば必ずどこかに弊害が出てくるもの。本来の病気よりも怖い副作用という疾病が襲ってくる可能性もあるのです。

そこで今回は、丹羽先生に薬害、副作用について、お話をしてもらいました。そもそも先生は、最愛

の息子さんを白血病で亡くされました。そのときに抗がん剤の副作用で地獄の苦しみを受けているご子息の姿を目の当たりにし、副作用がなくて効果のある薬の研究に没頭し、今日に至っている経緯があります。

**副作用の代表格、抗がん剤
延命効果が期待できない
ときには使わない**

——タミフルなど、薬の副作用がまたしても問題になっています。先生からすると、そんなことは何十年も前から口をすっぱくして言い続けていることだと思いが、ここでもう一度、薬という化学薬品の怖さをお話していただけないでしょうか。

丹羽 薬害、副作用の代表格はやっぱり抗がん剤でしょう。うちには全国からたくさんのがん患者さんが来ます。その中で多いのが、まずは抗がん剤の怖さを知っているから絶対に抗がん剤を使いたくない、という患者さん。次に、抗がん剤でひどい目に遭った患者さん。次に、いい先生だという評判だけ

を聞いて、抗がん剤の怖さを知らないで来る人。これは僕の乱暴ではつきりもの言う対応が気にいらない、合わない、すぐにガンセンターに行く(笑)。それから、自然回帰的な考え方の人。西洋治療、化学薬品は一切使わないと言う人。

——なるほど、この4種類に大きく分類できるわけですね。そんななかで、先生は、時には抗がん剤も使用されるんですね。

丹羽 原則的には抗がん剤は使わないです。特に延命効果のないものには使わないんです。うちの息子も医者で、ずっと千葉のがんセンターにいたんですが、数年前に父親の僕のやりかたがやっぱり正しいと言って、うちに来たんです。しかし、がんセンターに12年もいたから、彼は少しでも延命効果があれば抗がん剤を使うんです。乳がんや卵巣がんなどの再発は、ほうつておいたら1年か2年で死にます。それが抗がん剤を打つと、1年半から2年半は生きるんです。そこでいつも息子とケンカですわ。おまえな、5年10年延命できるの

と違うやろ。たったの半年か1年やと。もしも僕が再発乳がんの患者で、抗がん剤をして、おいしいものもろくに食べられずに副作用でゲーゲーやりながら死ぬくらいなら、うまいものを食べて、ニコニコしながら死にたい。それでたとえ1年寿命が少なくとも本望ですよ。人間の尊厳ってそういうものじゃないんですか。

化学薬品の薬は 使い続ける限り副作用から 逃れられない

丹羽 あと、抗がん剤というと悪性リンパ腫などは、10人中3人くらいは抗がん剤で生きる。しかし、あとの7人はダメ。そのダメなのがうちに来る。そのなかの8割はうちの治療で助けてやれます。でも、1割はダメ。もう1割は、抗がん剤のなかでも植物成分から作られたペプシド(成分名エトポシド)という薬があります。これは、髪の毛も抜けないし、ゲーゲーすることもない軽い抗がん剤。これを僕の薬と併用すると治る。もち

ろんペプシドだけでは治らない。僕の薬と併用するから効果があるんです。これは生きるし、あまり苦しむことがないですね。

——あと、薬害というとき必ず言われるステロイドなどは？

丹羽 ステロイド漬け、これも多いですね。重度の患者さんも、2錠、1錠と減らして行って、安全圏に持っていかなければなりません。どうしてもつていけない重度の人もあります。そういう人には従来の化学薬品のなかでも最も軽いネオールというのを飲ませます。これを飲ませると、ステロイド4錠を2錠か1錠に減らすことができる。

——これらの軽い薬というのは、やはり副作用がほとんどないんでしょうか。

丹羽 ところがやっぱり化学薬品には変わりない。免疫抑制剤もペプシドも、髪が抜けたり、ゲーゲーやるようなひどい副作用はないけど、常用していると、ある日、突然、肺硬化がくる。肺が真っ白になる。ネオールは腎臓にもきてしま

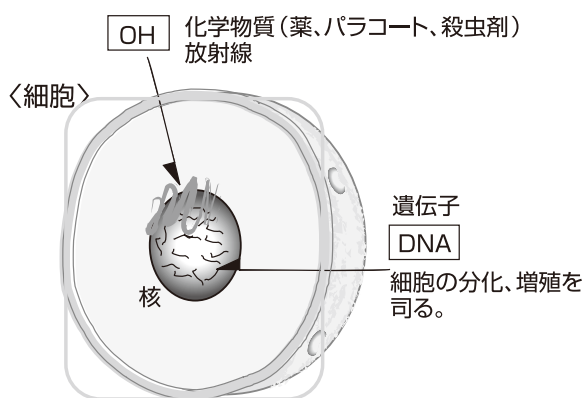
ます。

——重い、軽いの違いはあっても、常用していると薬害はやはり避けられないわけですね。

丹羽 いまの西洋医学の抗がん剤のいちばんの薬害は、トータルのに、がんを叩いたら正常な細胞もやられる、ということです。

——では、もう少し日常的な薬の中で危険なものは？

丹羽 コレステロールを抑える薬があるんですが、これはけっこう

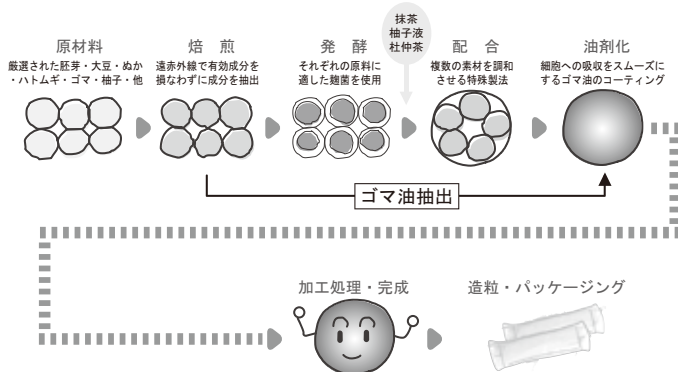


化学物質は細胞の核に影響する

誰にでも処方されるものの中でも危険なものです。だいたい、コレステロールなんか多少高くてもいいんです。逆に低すぎる方が良



抗がん剤の副作用に苦しむ息子の姿を思い出すたび、
副作用のないSOD様食品の開発に打ち込んできた



くない。SODさえ飲んでおけばいい(笑)。だいたい、日本の基準値は欧米にならっている。しかし、高コレステロールによる心筋梗塞の患者数は日本人は欧米人の5分の1以下。なのに基準値をオーバーするとコレステロール降下剤を処方される。今、220mg/dL以上で高コレステロールでしょ。240〜260mg/dLくらいのほうが健康ですよ。

——私事ですが(笑)、去年、健康診断のとき、コレステロール値が220mg/dLで再検査という通知がきたんです。で、再検査してどうするのか聞いてみたら、220mg/dLより下がらなければコレステロール降下剤をしばらく飲み続けて再度検査するっていうんです。だから、けっこうです。220mg/dLくらいは高い数字じゃないですかと言っ

て断ったら、素人の判断ではなく、医者の判断に従わないと後で後悔しますよって脅されました(笑)。

丹羽 どうしても薬を飲ませたい

(笑) わけで、まあ、たくさんくれること。コレステロールを抑える薬というのは、昔はまったく効果がなかった。だから余り大勢に影響がなかったんだけど、17、8年前にメバロチン(成分名 プラバスタチンナトリウム)というすごく効く薬ができたんです。その翌年、まだ、使われ出して間がないのに、厚生省が毎年出している薬害調査発表に、出たんですよ、薬害が。去年、メバロチン服用で34人の急性腎炎が出たから気をつける。急性腎炎というのは、10人中9人が人工透析しなきゃならない。そうなったらなにをやっても治らない。メバロチンは効きすぎるからちよつと怖いなーと思っていたら、案の定や。それみると。特効薬にろくなものはない。このメバロチン、今は特許が切れて、同じ成分で違う名前の商品がいっぱい出ているから気をつけなさい。とにかく、コレステロールが少々高いくらい大丈夫なんだから、薬はやめなさいよ。

薬はひとつの臓器だけを叩けない
返す刀で他の臓器を壊す

——やっぱり。危ないところでした(笑)。

丹羽 この手の話はなんぼでもある。喘息で使う気管支拡張剤。あれも怖い。あれはどうやって効くかというと、交感神経という神経を刺激して気管支を拡張するのや。そうすると、気管支は拡張されるけど、心臓にくるんやね。喘息が治らなくてずっと気管支拡張剤を使い続けていると、10年、20年後に心臓がトクトクいつて必ず不整脈が出る。心臓は文字通り人間の心臓部だから、不整脈が開始めると、心臓発作で突然失神して死んでしまうこともある。だからね、拡張剤を使うなどとは言わないけれど、発作が出たら怖いからと言って予防的に常用するのはやめなさい。予防で使っていたら、必ず不整脈がでるぞと。

——化学薬品からできた効く薬はイコール副作用ですね。

丹羽 今の西洋医学の薬で一番困るのはひとつの臓器、組織だけを叩けないということ。肝臓の正常な細胞がコレステロールや中性脂肪を作るんだけど、この肝臓の正常な細胞は生まれつき働きの強すぎる。だからコレステロールや中性脂肪を作りすぎる。それで血液がねばっていかんと言ってる。そこでいろんな薬ができて、使われていたけど、どれも効かなかった。だから副作用もなかった。ところがメバロチンは、正常な

コレステロールや中性脂肪を作る肝臓の細胞を、初めて叩いたんだな。その返す刀で腎臓を叩いてしまったというわけや。

つまり、ひとつの臓器、組織だけを叩けないんだと。効いた薬ほどどこかをいっしょに巻き込んでしまう。

私も西洋医学をやっているから5%は化学薬品を使うけど、いつ副作用が出るか毎月検査しながら、びくびくしながら使っている。それが正しい化学薬品の使い方ですよ。

医大を卒業して5年や10年で俺はがんでも膠原病でもなんでも治してやる、というやつがいちばん怖い。

もうちょっと医学の限界、怖さを知れということ。

もうひとつ、病気の90%以上は死ぬか治らないかのどちらかなんだということを知ること。腎炎でも10人中9人が人工透析だし、肝硬変、がんになれば7割が死ぬ。治らない。今の西洋医学では高血圧は上がった血圧を下げるだけ、糖尿病は上がった血糖値を下げるだけ、リウマチは痛みを止めているだけ。治りはしない。何をやっても90%の病気は死ぬか何十年も治らないかどっちかなんですよ。これに薬を使うと、必ず副作用が出る。何十年も効く薬、血圧を下げる、血糖値を下げる、痛みを止める薬を使い続けられれば、必ず副作用が出る。これが今の西洋医療の薬害なんですよ。

◆丹羽先生診察ご希望の方は
御紹介、御予約いたします。
丹羽メディカル研究所

0120(731)175
もしくは

日本SOD研究会
03(5787)3498

まで お電話ください。

SODロイヤル 愛飲者からのおたより

健康維持 ◆良好

大阪府 45歳 男性 会社員

3年程前より健康維持のため、丹羽SOD様食品を1日1〜2包摂取しています。

- ・風邪をひきにくくなりました。
- ・肝機能が良くなり、二日酔いをしなくなりました。
- ・胃痛の時も服用すると痛みが無くなり、便通も良くなりました。

リウマチ ◆良好

群馬県 76歳 男性 旅館業

旅館と飲食店を営営しておりますので、仕事に追われる毎日です。

夜、床に就くと関節が痛くなり、眠れぬほど痛く大きな声を出して飛び起きる日が続いていました。

それを見かねた妻が、自分が通院している接骨院の先生に相談したところ、丹羽博士のSOD様作用食品が良いと言われ、半信半疑な気持ちでしたが、少しでも痛みが取れて良く眠れるようにと、妻が買って来てくれました。

1日に6〜8包飲み始めましたが、すぐには改善されませんでした。その後、3箱目位から症状が改善し、痛くて夜中に飛び起きていたのが、嘘のように無くなりました。

また、皮膚がかゆくなり湿疹が出たときも、丹羽SOD様作用食品を飲み続けると徐々にかゆみが取れてきます。

だんだんと老化していく自分の体に、毎日何本でもよいから丹羽SOD様食品を飲み続けて行けたら良いと思います。

SOD愛飲者
インタビュー再発した潰瘍性大腸炎
一週間で結果が出た

西岡 径子さん 38歳

10分おきにトイレへ
外出もできなかった難病

この会報でも昨年に特集した難病のひとつ、潰瘍性大腸炎。その病にかかり、大変な思いをされたのが今回取材させていただいた奈良県にお住まいの西岡さんです。

子供のときから好き嫌いが激しく、偏った食生活を送ってきたうえに、無理なダイエットを繰り返していた西岡さん。20代の頃はそれでも風邪をひきやすいくらいで乗り切ってきた。それが乗り切れなくなったのが5年前のこと。

「まだ結婚していなくて実家の大阪に住んでいたとき、トイレに行く」と、白い粘液が出始めたんです。何なんだろうと気にしていたら、腸にガスが溜まり、頻繁にガスが

出るようになったんです。腸の全部がガスで埋まっているような感覚で、10分おきにトイレに駆け込むような状態になったんです。仕事美容師で、実家の美容院を手伝っていたので、家と仕事場が隣同士という環境だったからまだ仕事できたけど、普通のお勤めの仕事だったらとても勤まらなかったでしょうね」

さすがにこれは普通ではないと感じ、大学病院に駆け込んだ。そこで下された診断が「潰瘍性大腸炎」という聞き慣れない名前の症状だった。

この病気は、大腸の粘膜の最も内側の層にびらんや潰瘍ができ、下痢や粘血便（血液や粘液、膿などが混じった便）といった症状が出る病気。進行すると大腸だけで

なくそのほかの消化器官の粘膜にも炎症が起こり、クローン氏病に進化する。原因はまだまだ不明とされている難病で、治療法もステロイドなどの化学療法で抑えるだけ。

彼女も、強いステロイドを処方されたおかげで、症状は一気に回復した。難病と言われても、こんなに早く回復するんだから、大したことなかったんだと思ひ、その後2年近く放ったらかしにしていた。

再発に加えて
ステロイドの薬害に苦しむ

そして結婚と同時に奈良に移り住み、美容師として仕事に励み、そろそろ子供を、と思ったがなかなか妊娠できなかった。そこで、不妊治療の一環としてホルモン治療を始めた。そうしたら、これがキッカケでまた大腸に異変が起こったのだった。

「今度は奈良の有名な大腸専門の病院にかかり、ペンタサというステロイドよりも副作用の少ない飲み薬を処方されました。加えて、腸

に直接ステロイドを浣腸するように注入してもらい、一時は良くなったんです。でも、良くなったように感じるだけで、酢の物や香辛料、野菜などの繊維質を摂ると、すぐに元に戻ってしまうんです」

ここからは悪化してはステロイドの繰り返し。しかも、症状はどんどん悪化していくばかり。ひどいときは便器が血で真っ赤になるほどの血便で、体力もどんどん落ちていったという。

SODとの出会いはそんなさなかのことだった。

「美容室に営業の方からお電話をいただいて、なにか体のことで困っていることなどはないかと聞かれました。普通ならそういったセールの話などはあまり相手にしないんですが、なんかそのときはあまりにもつらくてつい病気の話をしたんです。そうしたら、愛用者の人の中にも同じ人がいて、劇的に治った例があると言われ、資料を送ってもらい、その体験談を読んだんです」

直感、運命の出会い そして一週間後…

薬をもつかむ思いと、直感、出
会いが重なり、彼女が SOD を飲
み始めたのが今年の2月のこと。

「すごいんです。ほんとに、飲み始
めて3日くらいで、粘液が出なく
なっただんです。お腹もまったく痛
くなくなつて、1週間くらいで出
血もなくなっただんです。びっくり
でした。なんでも SOD は腸壁か
ら直接リンパに吸収されるから腸
の疾患にもすごく効くんですね。
そういうこともラッキーだったと
思います」

その後、どんどん症状が回復し、
これまではすぐにトイレに駆け込
む生活で、怖くて外出もできなかつ
たのが、今では従来の普通の生活
ができるようになった。病院から
処方されていたペンタサも、飲む
量がどんどん減り、飲むのを忘れ
る日があった。

「周囲や主人は、薬は飲まないとい
つ再発するか分からないから飲
めっていうんですが、どうもステ

ロイドを含め、お薬で治るという
感覚が持てないんです。だから、
いまはまったくそのへんの薬は飲
んでなくて、SODのみです」

ペンタサという薬は「TOPN
ETの薬のしおり」によると、

「この薬は小腸、大腸の炎症をおさ
え、潰瘍性大腸炎やクローン病の
下痢や血便の症状を改善したり再
発を防ぐ働きがあります。しかし、
この薬は病気の原因そのものを治
すものではありません」

と書かれているように、西岡さ
んの直感は正しかったことになる。



「あと、お客さんがいらっしゃる
仕事で、やはり風邪の季節はいろ
んな人から風邪をもらうことが多
かったんですが、SODを飲み始

めてからは、風邪を引いたかなと
思った夜にいつもより多目の4袋
くらいのSODを飲んで寝ると、
翌日には回復しているんです。本
当に丈夫になったなと実感してい
ます」

丹羽博士によると、この潰瘍性
大腸炎は、欧米に多く見られ、博
士が学生だった50年ほど前の日本
では、ほとんど見られなかった病
気だという。

「環境汚染とホルモン漬けになった
肉乳製品を食べる食生活が増えた
せいで、こういった難病患者が日
本でも激増しているんです」

西洋治療では根本治療の特効薬
はなく、一生治らない病気とも言
われているが、欧米では治療の研

究が盛んに行われている。
「今はお友達とお買い物や食事にも
でかけられるようになって本当に
嬉しい限りです」

と毎日が楽しいとおっしゃる西
岡さん。

西岡さんの劇的な治癒が、西岡
さんがかつてそうだったように、
同じ病気で苦しまれている方の励
みになれば幸いです。



主婦は化学物質に多くのさらされている

SOD 様食品 体験者の声 をお聞かせ下さい。

難病で苦しんでいる方た
ちが少しでも早くいい治療
法に行き当たるように、本
誌では愛飲者の声を募集し
ています。お手数ですが、

〒154-0012 東京都 世田谷区
駒沢 5-13-1-205

日本SOD研究会 藤沢宛

TEL 03-5787-3498

までご一報ください。

丹羽療法を知る一冊

◆ブックガイド◆

「がん治療 究極の選択」

講談社

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」日本SOD研究会

「活性酸素で死なないための食事学」

廣済堂

「丹羽博士の正しいアトピーの知識」

廣済堂

「天然SOD製剤ががん治療に革命を起こす」

廣済堂

「白血病の息子が教えてくれた医者」

草思社

「安心の医療・本当の健康」

みき書房

「クスリで病気は治らない」

みき書房

「医は仁術なり」

至知出版

「丹羽療法 全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」

リヨン社

「SOD様作用食品の効果」

小冊子



SOD様作用食品とは・丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや成人病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が

存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいために内服しても胃で破壊され、腸から吸収されませんでした。

それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。



開発した丹羽耕三医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病患者で亡くされ、それをきっかけにSODの研究を始めた。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。

開発には実に二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本当の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです

あしたも元気 (No.89)

消化と吸収について

私たち人間は、生命活動し身体の動きを守るために毎日食べ物を摂取しています。しかし口に入れた食べ物は、そのままでは分子が大きすぎて身体のために働くことはできません。

食べ物が栄養として身体の各組織に運ばれるためには……

胃や腸などの消化器官によって分解し、変換される→「消化」

消化されたものが血液やリンパ液中に取り込まれる→「吸収」

口から入るものは、口→食道→胃→小腸→大腸などに取り入れられて、老廃物は尿や便となり体外に排泄されます。

三大栄養素の消化・吸収

■炭水化物：糖質と消化されない繊維とがある。穀類や砂糖類の主成分でエネルギー源の役割をする。最終的には「ブドウ糖」になり吸収される。

■タンパク質：身体を構成している成分であり、酵素やホルモンの調節をする。最終的には「アミノ酸」になり吸収される。

■脂質：エネルギー源の役割や細胞膜を構成する。脂溶性ビタミンを吸収するのに欠かせない栄養素である。最終的には「脂肪酸」と「グリセリン」になり吸収される。

消化・吸収の過程

口(唾液)

●口から取り入れた食べ物は歯によって噛み砕かれて、唾液に含まれるアミラーゼという酵素がデンプン(糖質)を麦芽糖に分解する。

※食べ物をよく噛んで食べることで、唾液の分泌を促すことができる。

胃

●食道を通り、胃に食べ物が入ると胃壁から胃液が分泌される。

●胃液にはペプシンというタンパク質分解酵素を含み、タンパク質をペプチドに変換させる。

●胃液には塩酸が含まれていて、カルシウムを水溶性にして小腸での吸収を助ける働きがある。

十二指腸

●胆汁と膵液が出される。

肝臓

●胆汁は肝臓で作られて十二指腸に送られる。

●胆汁には、脂肪を小さな粒状にしてそのままだでも吸収できるようにする役割がある。

●小腸で吸収した栄養素を分解、合成し身体に必要な栄養素に変換したり、蓄えたりする。

●化学物質やアルコールなどを分解し、無害な物質にする。

脾臓

●脾臓は脾臓で作られて、十二指腸に送られる。

●脾臓には5種類の酵素が含まれていてデンプン、タンパク質、脂質を分解し消化する。

小腸

●腸液が分泌され、3種類の酵素が含まれていて最終の消化をする。

デンプン→ブドウ糖 タンパク質→アミノ酸 脂質→脂肪酸、グリセリン

吸収された栄養分は2つの経路を通り全身へ送られる。

腸の毛細血管

炭水化物・タンパク質一部の脂質・ミネラル、水溶性ビタミン

脂質・脂溶性ビタミン

大腸

●主に水分が吸収される。

一般的に、口から入った食べ物が各消化器官を完全に通過するのは24〜72時間といわれています。

摂取した食べ物は消化・吸収されてエネルギーとなりますが、食べ物全てが吸収されるわけではありません。食生活や健康状態により吸収率は変化します。

毎日いろいろな食品を摂り、よく噛んで食べること

【栄養士 高橋広海】

丹羽博士の著書

丹羽博士の、一般向けの著書の一部を紹介いたします。活性酸素と病気、SODについて、平易に書かれています。

「安心の医療・本場の健康」 (みき書房)

「丹羽SOD様作用食品摂取者の体験報告」 (日本SOD研究会)

「クスリで病気は治らない」 (みき書房)

「白血病の息子が教えてくれた医者への心」 (草思社)

「活性酸素で死なないための食事学」 (廣済堂)

「丹羽博士の正しい『アトピー』の知識」 (廣済堂)

「天然SOD製剤がガン治療に革命を起こす」 (廣済堂)

「医は仁術なり」 (致知出版)

「丹羽療法」全国のアトピー患者が信頼するこれだけの理由」 (リヨン社)

「新刊」がん治療 究極の選択」 (講談社)

「SOD様作用食品の効果」(小冊子) リーフレット全20巻



SOD関連出版物一覧

バックナンバーについて

日本SOD研究会では、これまでに発行した「会報」のバックナンバーを用意しています。様々な疾患と活性酸素の関係について掲載しています。

ご希望の方は、最寄りの取扱店または、日本SOD研究会

TEL 〇三二五七八七―三四九八

までご連絡ください。

丹羽SOD様作用食品

